

# 支え合いで孤立防げ

市内の保健  
福祉関係者

## 階上で生活支援チーム発足

気仙沼

仮設住宅や在宅で暮らす孤立しがちな被災者の生活支援を目的に、気仙沼市内の保健、福祉関係者が主体となった民間のサポート組織が20日、階上地区に発足した。トレーラーハウスを拠点に、訪問による高齢者の健康相談や住民同士の交流促進事業を展開し、地域で支え合う環境づくりを図る。

設立したのは、ケアマネジャーや社会福祉士、精神保健福祉士、医師や保健師など、気仙沼市内で活動する有志11人。団体名は「生活支援プロジェクトK」で、現在、特定非営利活動法人（NPO）の申請手続きを進めている。

階上地区内の仮設住宅などで生活する被災者宅を回り、日常生活の困り事や健康、育児、心の悩みなど各種相談に応じる。震災で職を失うなどして経済的に困窮している被災者に対しては、各種制度の紹介や気仙沼復興協会など地元の関係団体と連携し、「自立」を後押しする。

日応じるほか、お茶会や芋煮会、手芸、伝統料理教室などのイベントを通して、住民同士の交流も促進する。長引く避難所生活や慣れない仮設住宅などで、被災者のストレスは募るばかり。阿部正孝代表（東北福祉大准教授）は「震災で失われた日常生活を一日も早く取り戻せるよう、きめ細かなサービスを展開していきたい」と話している。

オープン初日の28日は、開設を記念して「なんでも相談会」や移動動物園を開催。地区民に気軽な利用を呼び掛けている。時間は午前10時から午後3時。



被災者の生活支援の拠点施設となるトレーラーハウス

市内で災害支援活動